

# 鶴風群馬

No. 15



## 東邦大学のルーツを探る研修会を開催して

群馬県支部長 深澤恵子 (S56・化学)

2025年度も支部会員の皆様や各地の鶴風会員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

2025年は東邦大学創立100周年の年でした。今年度は私たち理学部鶴風会群馬県支部でも、東邦大学のルーツを探ろうと支部総会後の研修会として、帝国女子理専の1期生猿橋勝子氏の軌跡を辿って東邦大学や同窓会とのかかわりについて紹介しました。

1925年帝国女子医専が開校しましたが理専はなかなか許可が下りず、少し遅れて1941年の開校となりました。

BS-NHKで猿橋先生の軌跡を取り上げた番組を見た役員が、是非これを紹介したいとの提案がありました。猿橋勝子氏、猿橋賞は聞いたことがあってもどのような方なのか



ご存じない方も多かったと聞いています。約50分間の番組をみんなに見てもらいたいという気持ちだったのですが、ここで著作権の問題が出てきました。何度かNHK関係機関に問い合わせましたがはっきりした返事をいただけず、後で問題になってはいけな使用を断念。それでは別の方法で猿橋先生を紹介しようと、額田記念東邦大学資料室に問い合わせたところ春休み中は閉室とのことでした。その間に役員はそれぞれ何冊もの猿橋先生関係の本を読みすっかり猿橋つうになりました。

新年度になって理学部鶴風会からも連絡していただき、上記資料室にて理専1期生の卒業アルバムをはじめ、当時の広報誌などの資料を閲覧させていただくことができました。大切に保存されている資料の数々は当然持ち出すことはできませんが、写真を撮らせていただき資料のコピーを送っていただきました。何より私自身が見入ってしまい、気が付くと3時間以上経っていました。その後資料室担当の方と何度もメールのやり取りをして支部総会での使用許可をいただき、市販の書物にはない猿橋先生の鶴風会との関わりや、鶴風会の歩みについてもご紹介することができました。人となりについては生前の猿橋先生をご存じの方が何人もいらっしゃるの、こちらで語るまでもありません。

更に「日本を変えた女性たち5・猿橋勝子」というDVDを見て、やはり映像を使いたいとの思いから支部で購入しました。こちらは館内上映が許可されているものです。発表に際してはパワーポイントの作成から当日のパソコン操作まで、支部会員が引き受けてくれましてスムーズにできましたことたいへん感謝しております。群馬県支部みんなで作った研修会でしたが、なかなか有意義な企画だったと自負しております。

各地の支部はそれぞれの事情を抱え、独自の道を歩んでいます。群馬県支部でも総会と自然探索会との組み合わせやワークショップなどの企画も浮かんでいます。これからも多くの皆さんが集える支部を、みんなで作って行きたいと思っておりますので何卒よろしくお願ひ申し上げます。



2025年群馬県支部総会集合写真



支部総会の様子



懇親会 あちこちで話が弾みます



最後は全員で校歌斉唱

## 2025 年度 理学部鶴風会群馬県支部活動報告

### 1) 2025 年度第 19 回群馬県支部総会・研修会・懇親会

令和 7 年 7 月 5 日 (土) 11:30~

会場「高崎アーバンホテル」

#### ① 2024 年度 活動報告・決算報告・監査報告

2025 年度活動計画案・予算案 報告の通り承認される。

#### ② 研修会

##### ●テーマ

東邦大学理学部のルーツを探る「猿橋勝子先生の軌跡を辿って」

案内役講師 東邦大学理学部鶴風会群馬県支部長 深澤恵子 (S56・化学)

### 2) 支部役員会議

#### ●第 1 回役員会議 令和 7 年 4 月 16 日 (水)

- ・第 19 回群馬県支部総会の打ち合わせ。

開始時刻変更、懇親会メニューについて料理長と相談する。

研修会内容について

#### ●第 2 回役員会議 令和 7 年 6 月 7 日 (土)

- ・支部総会打ち合わせ詳細 会員にお手伝いをお願いする。
- ・自然探索会について候補を挙げる。

#### ●第 3 回役員会議 令和 7 年 6 月 25 日 (水)

- ・支部総会最終打ち合わせ 役割分担 各報告確認
- ・研修会内容最終調整

#### ●第 4 回役員会議 令和 7 年 9 月 5 日 (金)

- ・支部総会・研修会・懇親会を振り返って
- ・自然探索会について 日時決定・コース検討

#### ●第 5 回役員会議 令和 7 年 10 月 8 日 (水)

- ・群馬自然探索会 富岡 下見 コース詳細決定

#### ●第 6 回役員会議 令和 8 年 2 月 25 日 (水)

- ・自然探索会反省と次回について
- ・令和 8 年度支部総会について
- ・鶴風群馬 N015 発行について

### 3) 群馬自然探索会 in 富岡 令和 7 年 11 月 9 日 (日) 実施

コース 世界遺産センター→昼食→群馬県立自然史博物館 11 名参加

### 4) 鶴風群馬 N015 発行

## 群馬自然探索会 in 富岡 に参加して

荒井昭雄 (H3・生物)

私は3年前から高崎駅近くで行われる支部会に出席してメンバーの方々とお話ができるようになり、今回初めて富岡への自然探索会に参加しました。初めに世界遺産である富岡製糸場PRの為に作られた世界遺産センターへ、そこで蚕蛾から繭、生糸が作られる過程を小さな子供から大人まで楽しく学べる展示で学びました。お昼は舞茸の天ぷら付きの煮込みうどんを食べながら同じテーブルの方々と大学時代の話に花が咲き、心もお腹も満たされました。



午後は群馬県立自然史博物館に行き「ながいながい骨の旅」という生物の進化を骨の視点で考える特別展を見ました。そこで参加者と古代の海洋生物や恐竜の骨についての議論もしました。私は東邦大学では発生学研究室に在籍していました。進化や古生物は今でもすごく興味があります。また一日、大学の先輩や後輩またその家族とゆっくり時間が過ごせました。自然探索会、次回も楽しみにしています。



世界遺産センター 生糸から絹糸へ



世界遺産センター 養蚕から織物へ

## 「すごいぞ とみおか」

よこづかりょういち (小学2年)

お母さんの先ばいたちとおでかけに行きました。みなさんは、きょ年もぼくたちをつれて行ってきて、やっぱりとてもやさしい人たちでした。

さいしょに、せかいいさんセンターというところに行きました。カイコガが糸を作っていました。虫なのに、糸を作れるなんてすごいと思いました。

つぎに、しぜんしはくぶつかんに行きました。自分の足の下のだまガラスからかせきが見えて、はくつしているようすがありました。まるで自分のはくつしているみたいでした。そして、本もののようなティラノサウルスがあつて、今にも食べられそうな気もちになりました。さいごにいろいろなどうぶつのはねを見ました。ふしぎな形のはねがたくさんあつて、おもしろかったです。

とても楽しかったので、またらい年も行きたいです。

## 横塚紗里 (H23・生物)

子連れで参加させていただくことに、とても柔軟な温かい考え方をして下さって、本当にありがとうございます。

子どもたちにとっても、すごく楽しいですし、私ももっと幅広い世代の方が参加してくれたらいいなと思います。

子一が2年生になってから毎週末日記の宿題が出ていまして、私も必死になって書かせているので、お褒め下さってとても嬉しいです。また文章を掲載して下さいなんて、日頃の努力が報われる思いです。

今後ともよろしくお願ひします。



恐竜の足跡に座ってみよう

## やるベンチャー体験学習と保育体験実習の思い出

原 秀介 (昭和40年・生物)

東邦大学理学部生物科に在学時に中学校・高等学校の理科の教諭免許を取得し、卒業後群馬県公立小中学校・特別支援学校の教師として37年間務めました。定年退職後、高崎市教育委員会より高崎市立幼稚園、こども園園長として再任用の依頼があり、5年間務めさせていただきました。

こども園に勤務しているとき同じ地域の中学校より2年生のやるベンチャー（職業体験学習）と3年生保育体験学習を依頼され実施してきました。

中学生2年生のやるベンチャー体験学習・3年生保育体験実習を園児と楽しく過ごしている姿を当時の記録をもとに思い出しまとめました。

### ◎2年生やるベンチャー 体験学習の様子

お世話になったこども園では例年11月の4日間2年生が勤労体験学習に来ます。実習の目的は「勤労体験学習を通して自分の適性や能力に目を向け、将来の生き方を考える場として、こども園で実際に園児と関わりながら自分を見つめ今後の中学生としての方向性を見極める大切な学習」とされています。来園する中学生はこの園の卒園生がほとんどです。園の担任だった先生から直接指導を受けられるので、よりきめ細かい実習ができます。一方、園児だった頃の話をかされ照れたり、園児時代を思い出し感激する姿も印象的でした。

実習最終日に園の先生方と反省会を開き4日間の感想を聞きました。

- ・未満児童の保育の実習をする時は特に気を使い緊張した。
- ・お兄さん、お姉さん先生と園児が慕ってくれるので嬉しかった。
- ・放課後の作業では力仕事もあり大変だった。翌日の準備や作業がある先生方の仕事は重労働だと思った。
- ・大変な仕事だけれど将来保育園か幼稚園の先生になりたい。頑張りたい。



冬の倉淵こども園

4日間の体験学習を通して学んだことを今後の中学生として勉強、部活動、人間関に役立たせること、また、幼児教育の大切さの一端でもいいから理解してもらえれば直接指導した先生方はこの上ない喜びと思いました。生徒たちの今後の努力に期待しました。

### ◎中学校3年生保育体験実習の様子

当時中学校の教育要領の家庭科の授業で保育実習が組まれています。例年中学3年生徒が保育実習に来てくれます。中学校3年生の担任と園の先生が打ち合わせをして実習が始まります。実習は2日間なのでどんな保育をするかクラスでよく話し合い決めます。

手作り玩具や紙芝居、寸劇、指人形等持参し約2時間家庭科の授業の一環として保育実習を行っ

てくれます。

自作の主な玩具は磁石を使った魚釣り、輪投げ、ペットボトルで作った的あて、紙芝居や読み聞かせ、人形劇、当時流行している歌等であるが、園児たちも楽しみにしております。中学生たちはこの保育実習を通して何を感じ、どんなことを学び取れたか幼児教育大切さの一端を知り、自分たちも幼児の時から多くの人に支えられ今に至ったことをわかってもらい、支えてくれた多くの人達に感謝の気持ちを持ってもらえれば幸いです。

### ◎保育実習に来た生徒の感想文から

僕は保育実習に参加して二つのことを学びました。

- ・「園児は明るく何にも興味を持つ」ということです。その様子を見てとてもかわいらしくて、自分たちで作ったおもちゃで遊んでくれて、嬉しく感じました。
- ・「園児は先生方の指示にしっかり従っていた」ということです。例えば「もも組集まれ」と声をかけるとすぐに集まり整列をしていた。園児はすごいと思いました。特に「なんにでも興味を持ち、挑戦する」という気持ちを持ちすごいと思いました。僕たち中学生も園児を見習わなければと思いました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

そのほか共通して感じたこと、学び取ったこととして

- ・園児は自然体である
- ・先生と園児の信頼関係の大切さ
- ・発想力の豊かさ
- ・園児と同じ目線で話す大切さ
- ・一人ひとり個性を持っている
- ・園児とはいつもいつも笑顔で接することの大切さ等々でした。

生徒たちの感想文を読むと、日頃園の先生が心掛けて保育に当たっていることを2日間の実習で観察し学び取ってしまう洞察力の強さに驚きました。園の先生もより気持ちを引き締め今後の保育に当たらなければと感じたと思うと同時に、園で担任した中学生を保育実習に迎え入れ「心身ともに成長し頑張っているのが嬉しい」と園での担任がほっとしている姿を見て園長としても喜びを感じました。



こども園の福寿草

## 鹿児島県支部総会と奄美大島旅行記

深澤恵子（S56・化）

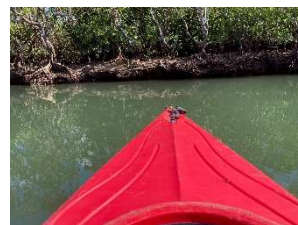
2019年の頃、鹿児島県支部長から「今度支部総会を奄美で開催したい。」とのお話を伺いました。聞けば奄美大島に移住している会員が3名いらっしゃるとのこと。驚きと共に奄美大島にたいへん興味が湧いてきて、この時から我家では奄美大島旅行計画が持ち上がりました。しかしながらこの後すぐに得体のしれないコロナが蔓延し延期延期とつづき、ようやく今年度2025年10月に実施されました。

鹿児島県支部より総会案内をいただき、奄美大島の位置関係やその広さ・名所を調べました。これは総会のついでに回れるような大きさではないと気づき、我家はジャルパックで旅行中心のスケジュールを組み、金曜日出発の2泊3日で中日に支部総会と懇親会に参加させていただくことにしました。

10月3日の早朝にバスで羽田に向かい、鹿児島空港経由で奄美大島へ。途中トカラ列島の上空から煙の出ている島を見て、あれは諏訪之瀬島だろうかと思いを巡らせているうちに奄美大島へ到着。そのままレンタカーで奄美市へ。奄美海洋展示館ではウミガメを養殖していて餌やり体験ができます。餌はなんと小さくちぎったレタスでした。陸ガメとの違いは手足の形や付け根と甲羅に隙間がないこと。間近で見たウミガメの大きさと力強い泳ぎに圧倒されました。その後海岸に出て散策。この旅行中いろいろな海岸を散策するのですが、足元の砂や珊瑚のかげら・海の色・波の荒さ、みんな違うのですね。島の北に面した海岸線を少し走って宿に戻り、夜は名物の鶏飯を食べに行きました。鶏飯とはご飯に茹でた鶏むね肉を細く裂いたもの・椎茸・錦糸卵・ネギ・紅ショウガ・のり・柑橘の皮などを乗せて鶏スープをかけて食べるもので、美味しかったです。



10月4日。海には潮の満ち引きがありますが、マングローブの林に行くには大きく影響します。海水と真水が行ったり来たり、その両方で生息できる樹木の総称をマングローブというのだそうです。満潮ですと川の奥深くまで海水が来て水位が上がるのでボートが入っていくことができますが、この日の午前中は干潮に近くカヌーを漕いで川を下りながらマングローブの根元を見たり、干潟に上がってシオマネキらしいカニを追いかけてたりしました。干潟はドロドロですが予めサンダルを貸してくれます。二人乗りカヌーで夫が後ろで漕いでいたので私は快適に川下り。しかしこれから引き潮に逆らって戻らなければ。



カヌーを戻し足を洗って、さらに島を南下し瀬戸内町に来ました。ここには水中観光船があり船の海中部分が大きな窓になっていてサンゴ礁の海中を見ることができます。この部分にこんなに人が入って浮力は大丈夫かと一抹の不安を覚えました。その水中の美しさにただただ見とれてしまいました。ここは水族館じゃなくて本物の南の海。日の光が海底に

届くほどの浅いサンゴ礁の海。サンゴ礁の上をサーっと通り過ぎる魚の群れ。海なし県の人間には夢のような世界です。



船を降りてターミナルの食堂で昼食に海鮮丼を食べました。美味しかったに決まっています。聞けばここはマグロの養殖が盛んで、実は漁師の8割が養殖で生計を立てているとか。そういえば海岸沿いのあちこちに港の看板はあったけど船は見当たりませんでした。売店のおじさんに勧められて採りたての皮が緑のみかんを買いましたが、見かけよりずっと甘くてこれは安い買い物でした。

この日は鹿児島県支部の総会前に焼酎工場見学があったのですが、私どもは時間が読めなかったので、申し訳ないけど不参加にしてしまいました。思いのほか時間が早く、途中アランガチの滝へ寄り宇検村へ向かうことができたので、さらにガイドブックを見ながら曲がりくねった海岸線を進みいくつもの海岸に降りてみました。足元一面珊瑚の浜も誰もいなくて心地よい風が吹いていました。

夕方鹿児島県支部の皆さんと合流し、宇検食堂での支部総会と懇親会に参加させていただきました。奄美大島在住の方々は群馬から来た私たちに、「叔母さんが桐生に住んでいます。」とか「卒業してから学生時代の群馬の友人を訪ねた。」とか群馬との繋がりを話してくれました。遅れて参加した島出身の同期生は、「初めて島外で生活し、日本語と島言葉の区別がつかなくて不安だった。」と語ってくれて、ずいぶん遠くから来てご苦労があったのだと想像しました。習志野キャンパスで過ごし、大久保通りを歩いた同窓生がここにも全国にもいることを、鶴風会は常に意識していなければならないと思います。郷土料理の数々をいただきながら島での生活を伺い、パワフルな鹿児島県支部の皆さんにお目にかかることができ頼もしさを感じました。

宇検村からホテルのある奄美市まで夜道を1時間以上走ります。それでもトンネルがいくつも整備されずいぶん速く行けるようになったそうです。ところがここで思いもかけず、

車の窓がどんどん曇る。なぜ？島は夜の湿度が高く、エアコンの効いた車内に対して窓の外側が結露するのですね。しかもレンタカーの窓ガラスは潮風にまみれたままでギラギラの状態、ワイパーで擦っても擦っても曇る曇る。パニックでしたが、途中でエアコンを消して窓を開けることに気づき無事にたどり着くことができました。

10月5日。滞在中はずっと好天に恵まれ、この日も海の景色を堪能しました。干潮時に現れるハートロックというハート型に海水をたたえた岩がある岩礁。若い女性グループがあれだこれだと指さしていましたが、結局私にはわかりませんでした。

奄美空港を通り過ぎさらに北上し景勝地あやまる岬へ。その形が綾に織りなす毬の形に似ていることからついた名称だそうです。東の水平線上には隣の喜界島が長く横たわり太平洋が広がっています。いつまで見ても飽きない海の景色、ほどなく上空を鹿児島県支部長の乗った飛行機が通り過ぎました。それを潮に、たつぷりと亜熱帯の空気を吸って私たちも帰途につきました。



宇検村船越海岸



あやまる岬観光公園

発行人：東邦大学理学部鶴風会群馬県支部

支部長 深澤恵子

支部事務局 群馬県高崎市

Mail kakufuugunma@gmail.com